

初台リハビリテーション病院

輝く笑顔満祭!

今年も納涼祭を開催しました。今年のテーマは「輝く笑顔満祭!」。
初出店の輪投げやスーパーボールすくい、予想以上に反響があり皆さんとても楽しそうでした。また恒例のお神輿や盆踊りも大盛況でした。
真剣にゲーム等に取り組む、普段見られない患者さまの姿を見ることができました。例年にない猛暑となりましたが、患者さまとご家族、スタッフが一体となり、まさにテーマどおり終始「笑顔」があふれた一日となりました。



船橋市立リハビリテーション病院

夏祭りを開催しました

入院中であっても患者さまに四季を感じていただきたい、という思いから毎年リハビリ室で夏祭りを行っています。当院のリハビリ室は大変広く作られている為、様々な催しを各チームで考え開催しました。
かき氷、綿菓子、的当てや金魚すくいなど、各チーム手作りで看板などを作成し大変盛り上がりました。食べ物もたい焼きやフランクフルトが提供されました。今後も患者さま・ご家族さまのために継続していきたいと思っております。



船橋市立リハビリテーションセンター

第18回 船橋市地域リハビリテーション研究大会 開催

2018年9月20日(木) 船橋市中央公民館にて行われました。日本のリハビリテーション医学の第一人者である上田敏先生にお越しいただき、「ICFを活用したリハビリテーション医療」についてご講演いただきました。当日は約300名の方が参加され、「上田先生のお話を直接聞く事ができ、大変貴重な時間を過ごせました」等の声が多数寄せられ、大盛況でした。次回の第19回船橋市地域リハビリテーション研究大会は、2019年2月9日(土)の予定です。ぜひご参加下さい。



在宅総合ケアセンター元浅草

真夏の夜の盆踊り

例年以上の猛暑を感じたこの夏、8月2日(木)~4日(土)の三日間、恒例のイベントとして地域をあげて行われる五町連合納涼盆踊り大会が開催され、当センターからも踊り手やお手伝いとして参加させていただきました。小さなお子様からご年配の方までたくさんの方々が集まり、楽しんで参加されている光景が印象的で、地域の皆様に親しまれているイベントであることが伝わってきました。今後も地域で行われるイベントには積極的に関わり、地域の皆様と共に歩んでいきたいと思っております。



在宅総合ケアセンター成城

区西南部地域リハビリテーションセンターの活動報告

去る9月12日(水)、当センターにおいて、2回目の世田谷幹事会が開催されました。世田谷区、医師会、薬剤師会を始め、各方面の専門職団体、医療機関を含む総勢19名の幹事の方々(法人内の幹事を含めると30名)にお集まりいただき、世田谷区内の活動報告、活動計画について話し合いました。
地域や専門職が抱える問題を共有したり、新たなご意見をいただいたりと、非常に有意義な時間を過ごすことができました。



クリニカルインディケーターについて

「クリニカルインディケーター」という言葉をお聞きになったことはありますか。

クリニカルインディケーターとは、臨床指標とも呼ばれ、病院の機能(平均在院日数、疾患別患者数など)や診療の状況などについて、様々な指標を用いて具体的な数値として示すものです。一般的には平均在院日数、疾患別患者数、患者満足度といった指標があげられます。また、初台リハビリテーション病院や船橋市立リハビリテーション病院のような回復期リハビリテーション病棟においては、リハビリ実施による実績も重要です。どのくらいのリハビリを実施し、どのくらい機能が回復したか(下図の「FIM利得」が具体的な表示例)、どのくらいの方が自宅に帰ることができたか、これらの実績を数字として表します。クリニカルインディケーターは、医療機関の現状を偽りなく表す客観的なデータであり、病院の『医療の質』を示すものなのです。

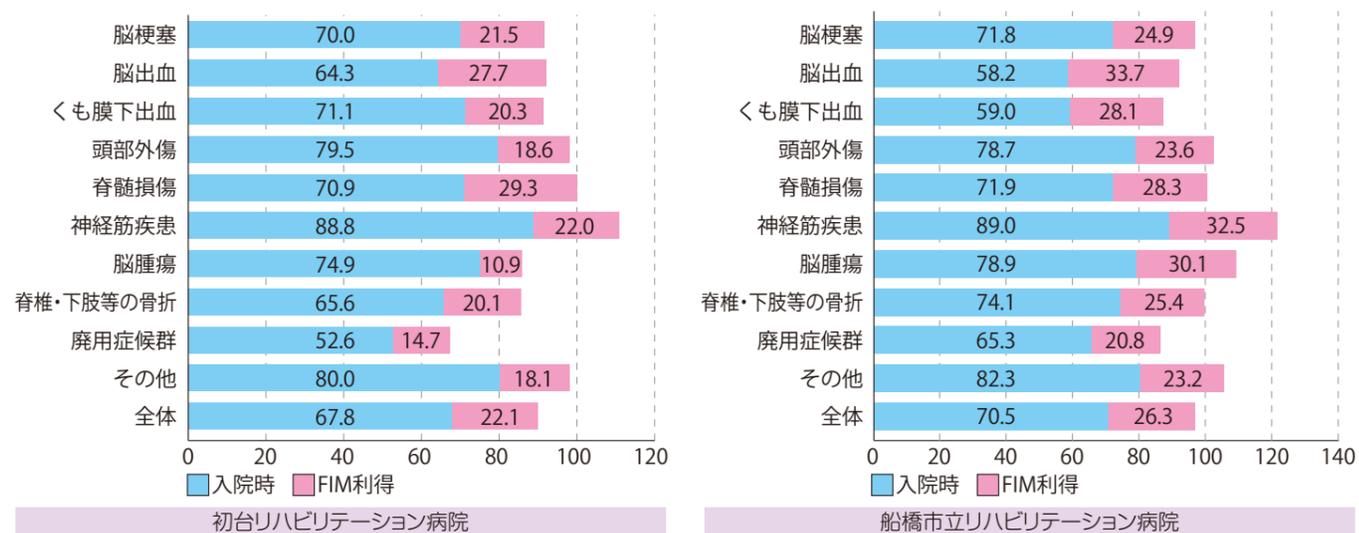
このクリニカルインディケーターについて、初台リハビリテーション病院と船橋市立リハビリテーション病院では、2015年度よりデータをホームページで公表しています。患者さまやご家族さま、他の医療機関等関係者の方々へは、データを見ていただくことにより、病院を選ぶ目安にいただくことも可能です。ぜひご覧になってください。

ただ、クリニカルインディケーターは、他の病院との比較のために作られるものではありません。働いているスタッフが、データを精査して課題を抽出したり、個人の研究にデータを使用したりして、フィードバックを行い、法人の『医療の質』の底上げをはかることも目的です。

病院の『医療の質』、ひいては法人全体の『医療の質』をさらに良くするために、データも積極的に活用し、サービスへ還元させていきたいと考えています。

文責：高橋 理沙子、針谷 ひろみ

2017年度 クリニカルインディケーター <一例：日常生活の改善>



医療法人社団 輝生会で働くソーシャルワーカーとケアマネジャーのご紹介

輝生会には、現在、41名（3名産休・育休中）のソーシャルワーカー（以下SW）と16名のケアマネジャー（以下CM）が働いています。輝生会のSWは主に病気をきっかけに生活に困難を感じた方に対して、CMは介護保険を利用する方に対して、相談援助を行っています。

ソーシャルワークってなんでしょう？

SWとCMは、ソーシャルワーク（ケアマネジメントを含む）と呼ばれる相談援助を行います。耳慣れない言葉かもしれませんが、ソーシャルワークとは、健康で文化的な最低限以上の生活を送ることが人間の権利である、という社会福祉の立場から、生活に困難を感じている方との信頼関係のもと、相談を通して援助を行うことです。

SWは国家資格である社会福祉士・精神保健福祉士、CMは介護支援専門員資格を持っています。

病棟担当のSWの仕事

初台リハビリテーション病院・船橋市立リハビリテーション病院の回復期リハビリテーション病棟や在宅総合ケアセンター成城の地域包括ケア病棟では、皆さまができるかぎり安心して入院できるよう、病院のしくみや医療費の説明など入院相談をおこないます。そして、入院中は、これまでの生活が急に変化し、どのようなことに困っているかを伺い、特に、経済面、患者さまが入院したことによって家族の中でおきている困りごと、今後の生活がどうなっていくのが心配だ、病院の中で誰に何を相談したらいいかわからない、といったことの相談にのれるよう、患者さま・ご家族全員に担当者が配置されています。

また、病気や障がいを持ちながら皆さまがご自分らしい生活を継続していただくために、どのように退院を迎えていただくかは、非常に重要な局面です。どのように準備をしたらいいのかわからない、不安な点はなにか、自宅に帰るための制度や、自宅に退院することが困難な場合どうしたらいいかを一緒に考えます。施設の探し方などを一緒に考える場合もあります。

外来（通所リハビリ）担当のSWの仕事

外来（通所リハビリ）担当のSWは、外来（通所リハビリ）の患者（利用者）さまとご家族を対象に、引き続き、生活で困難を感じていることの相談にのります。

外来では、特に、リハビリをいつまで続けるか、仕事に戻るにはどうしたらいいかなど、自分らしく社会生活を送るための相談が増えていきます。

在宅総合ケアセンター元浅草や船橋市リハビリセンターのSWは、センターのサービスを利用するための窓口やリハビリ総合相談としての役割も担っています。



「はい、ソーシャルワーカーです」
相談を受けたり、相談事を解決するために、さまざまな機関へ電話をして、患者さま・ご家族・病院・社会をつなぎます。
(ソーシャルワーカー)

CMの仕事

「ケアマネさん」という言葉を知らない日本人は少なくなりました。

CMは、介護保険法に位置付けられた「介護支援専門員」の通称です。

65歳以上になって、何らかの介護を必要としたとき、または、40歳以上で一定の病気が原因で介護が必要な状態となったとき、介護保険サービスを利用しながら自分らしい生活を継続するために、皆さまご自身でご自分の居宅介護支援事業所を選び、契約をします。そして、CMが皆さまの

一番身近な相談相手となります。輝生会では、元浅草と成城の2か所に居宅介護支援事業所を設けています。輝生会のCMは、「しっかりと相談にのること」に力を入れています。



「何かお変わりはないですか？」
月に1回は利用者さまのご家庭を訪問し、生活の様子を伺います。
(ケアマネジャー)

地域包括ケア推進のためのSW・CMの仕事

最近、国を挙げて地域包括ケア推進が謳われています。輝生会はリハビリを専門とする立場からさまざまな活動を行っています。

どんなに一人一人が努力してリハビリをしても、そしてどんなに一つの病院がよい医療を提供しても、生活する地域が豊かであること、すなわち、障がいをお持ちの方や高齢の方も、健常者も、生活しやすい支えあう場でなければ、患者（利用者）さまとご家族は孤立してしまいます。

そこで、地域活動を担当するSW・CMは、地域の住民の感じている生活の困難、行政の悩み、地域の他の関係機関による地域活動を知り、輝生会という資源を地域で有効に活用していただき、手をつないでいくためのソーシャルワークを展開しています。

SW・CMは、業務に地域活動が位置付けられており、地域活動は非常にやりがいのある仕事です。

私たちが大切にしていること

部門のメンバーには、真摯であろう、と伝えています。相談の仕事は「一生懸命」だけでは成り立たないときもあります。患者（利用者）さまも同じかもしれませんが、私たちも、一人の力では難しいことを、支えあうことで乗り越えられることが多くあります。部門での相談体制や研修体制を工夫し、「皆さまのこうしたい、こうありたいを大切にする」姿勢と、一人ではなく、多機関多職種の方々と共に相乗効果を発揮し、何事にも尽力していきます。

文責:教育研修局 取出涼子
(ソーシャルワーカー・ケアマネジャー)



ワークライフバランスのとりくみ

昨今話題のワークライフバランス。皆さまは、仕事とプライベートそれぞれの充実を目指していますか？
今回は、フロアボールというスポーツで、世界を舞台に活躍する輝生会のスタッフをご紹介します！
フロアボールとは、スウェーデン発祥の競技です。1970年代、アイスホッケーのオフシーズンに、室内ホッケーを始めたのをきっかけに生まれました。
2017年、2018年に行われた世界大会に、船橋市立リハビリテーション病院のケアワーカーの佐藤さん・泉さんが、日本代表選手としてそれぞれ挑んできました！
忙しい仕事の合間を縫って練習に励み結果を残され、大変素晴らしいことです。仕事も頑張る、プライベートも頑張る。職種や業界に関わらず、お手本にしたいですね。

